

へいそく そとびけえと

■曾於市文化財散歩（七）

「残したい風景」

私たちの周りには、残していき
たい風景が意外にたくさんありま
す。たとえば、身近にある建造物
であっても、再び造ることのでき
ない物などは立派な文化財です。



八ヶ代橋（下部が1926年製の石橋、上部が1976年製のコンクリート橋）

そんな宝物が、私たちの周りには、たくさんあるのではないのでしょうか。宝物の一つが石造りの橋、石橋です。曾於市内には、県内最古級の石橋といわれる恒吉太鼓橋があります。大隅町恒吉を流れる月野川（長江川）に架かる石橋です。郷土史によりますと、江戸時代中期一七九〇年（寛政二年三月）に架けられたもので延長一五・五メートル、幅二・八メートルあります。岩川（同市大隅町）と市成（鹿屋市輝北町）を結ぶ街道であり、かつては生活道として利用されていたようですが、今は老朽化が激しく立ち入り禁止となっています。石橋造りの技術の伝わりを知る上で、貴重な石橋で市の指定文化財です。

私の住む財部にもたくさん

石造りの石橋が残っています。時を経て今では利用できない橋が多くなり、改修しコンクリートで架けかえられています。災害、風水害により被害を受けた橋もあります。記憶に新しいところでは、平成五年鹿児島県下豪雨災害の被害を受けた、横市川にかかる二連アーチの宇都橋（眼鏡橋）の崩壊は大変ショックな出来事でした。今ではコンクリート橋に架け替えられ、昔の石橋の原型を残すものは年々少なくなりつつありますが、財部町南俣の八ヶ代集落に架かる八ヶ代橋は、非常に扁平なアーチの上に両端に小さなアーチが三つずつくり抜かれた石橋です。現在ではその石橋の上に隙間を空けて、現在のコンクリート橋が乗っており、コンクリートと石造りの折衷の美しい橋です。石橋に優しさといったわりを感じられる工法で、石橋の保存と活用のお手本のような橋だと私は思います。この橋はもともと一本橋で危険な橋であった為に馬を引いている時は、馬だけ川の中を渡らせていたそうです。八ヶ代に学校がある間は通学の心配はなかったが、通山校

との合併で通学に困るようになり、大正一四年に竣工した橋で、当時は集落の人たちの負担も大きく共有地を売ったりして造られた橋です。

橋というと、私も幼いころの思い出がよみがえります。川向こうの小学校に通う子どもたちのために、孟宗竹を切りだし、カズラで束ねて手作りの橋を架けてくれた大人たちの優しさ、子供を思う親心、愛を今でも忘れません。風水害で流されても何度でも架け替えてくれたことは言うまでもありません。今では立派なコンクリート橋が架けられ、そんな不便さえ考えもしませんが、石橋と触れるたび私の脳裏に温かくよみがえるなつかしい思い出です。

皆様方の橋の思い出は・・・
こんな時代だからこそ時には車を降り、ゆっくりのんびり、散歩でもしながら、いつまでも残したい風景に出逢うひとときを過ごしてみませんか。

（曾於市文化財保護審議会委員
山ノ内 ひさえ）